

年護軍用書類 才千五百号V、三
側

Ref No. 1522 No.

アメリカ合衆国才七十九議会才一會期 七貝珠塔攻撃

共同調査委員會證據書類才三十三号 抜萃

證據書類才三十三号

中東フシントン陸軍省G-2 作成軍事情報評價

(二十八) 千九百四十一年(昭和十六年)十二月五日

主題 千九百四十一年(昭和十六年)十二月一日ヨリ千九百

四十二年(昭和十七年)三月三十一日迄ノ情勢ノ簡書定期評價
大田啓三子想

追加(抜萃)

I.B. 才百五十九号ノA

千九百四十一年(昭和十六年)十二月五日

冬謀長宛覚書

主題 千九百四十一年(昭和十六年)十二月一日ヨリ千九百

四十二年(昭和十七年)三月三十一日迄ノ情勢ノ簡書定期評價
大田啓三子

添想
追加

千九百四十年(昭和十五年)九月日本が独伊兩國と締結セル

三国同盟ハ、アメリカ或ハアメリカ以外ノ國ニシテ、其時歐洲戰事ニ

参加シオラガル國但シソ連ヲ除イテ)が樞軸國ノ何レカヲ攻撃スル時ハ、

44

日本がソノ國ヲ攻撃スベキコトヲ含意的ニ要求シテサレ。併シ

ドイツノ侵畧ニ對スルソ連ノ頑強ナル抵抗ハ日本ノ對樞軸義務責任執心

ヲ冷却セシメタ。豊田外務大臣、後継者タル東郷ハ日本ノ外交

政策ニハ變化ガナク、樞軸同盟ヲ守ルモノデアルト声明シタガ、

而モ日本ハヨリ有利ナ立場ヲ確保スルタメニ樞軸同盟ニ對スル義

務責任ヲ無視シ更ニ進テ同盟カラ脱退モスルカモ知シテ不證カガアル。

日本ハ東亞ニアツテ無限ノ野望ヲ抱イテサレガ、英米ノ極東ニ

於ケル兵力増加ト日本ノ支那ニ於ケル依然タル傳政状態ノタメニ、

ソノ野心ノ實現ニ益々不利ナ戦畧的地位ニ立ッテ来テサレ。日本政府

首脳部ハ今日以上更ニ軍事行動ヲ起スコトニ對シ種々危険ノ伴フコトニ察ス

イテ、太平洋^{ニ於テ}全面戰事ヲ回避シタイデアレ。日本ハ、有ル手段ヲ講ジテ、

日米兩國間ニ横ハル全未解決問題ノ和平的解決ヲ目標トスル^ル協約ニ

アメリカヲ首肯サセタイ希望ヲサレ。コレハ單ニ東亞ニ於ケル

日本ノ領土的及び經濟的利益獲得ノ承認ヲ意味スハモノニ過ギナイ。

コレ等相撞着スル希望ノ結果ハドウカト云ハ、殆ト如何ントモ出まナシ

不決折ト云フ状態ガソレナデアレ。末極代ガ、吾ガアメリカトノ

和平的解決ヲ求メテ行ッテ會議當初ニ於イテ、日本ノ各新

ハッキリ
年々知らヌノデアル。事実上、日本国民ノ警愕危惧ノ念ハ明カニ
益々甚シクナリツ、アル即チ彼等日本国民ハ、現下ノ行路ハ、軍ニ
一カ國デナクシテ、數カ國ヲ一團トスル敵ト、大戦争ニ自分達
ヲ引キ入レツ、アルコトヲ怖レテヤル。若シ日本ガ完戦スルト
スレバ、國民ハ自信ヲ以テセズシテ自暴自棄的ニ戦争ニ
加ハル、コレガ現下ノ日本ノ情勢デアル。

C. 經濟。米英蘭印ノ對日貿易禁止ノ益々強化シ
行クガクメニ、日本ノ經濟事情ハ徐々ニ而モ確實ニ悪化シ
テヤル。日本人ハモトカラ軍用資材、適當ナル外國ヲ替、充
分ナル外國貿易ニ欠ケテヤルガ、今度ノ貿易禁止ハ、コノ
方面ノ不足ヲ益々甚クシクスルコトニ後立ツタ。

独逸カラ日本ヘ向ケテノ軍事及ビ産業設備機械ノ供
給ハ、独逸ノソ連攻撃ノタメニ途絶シタ。日本ハ、三國
樞軸同盟ガ政治的、ミナラズ經濟的方面ニ於テモ又自分
ニ重大ナル不利益ナ事情ヲ有シテヤルコトニ業ツギツ、アル。

樞軸派ノ首脳者ハ日独同盟正當化并明ニ益々困難ヲ感じ
ツ、アル。

日本ノ大東亞共榮圈ハ少シモ成功シテヤナイ。努力拂底

資材ノ使用ヲ始メルニ至ッタ。ソノ重工業ノ多クハ材料拂底ニ依リ、
割當配給ハ擴張強化サレタ。要スルニ、日本ハ経済的方面ニ於テハ
危^機險^直状態ニ墮^直テキル。今日ノ情勢デハ大ナル努力ヲ要スル産出
的^直手段ヲ講ゼネバナラヌ羽目ニナツテキル。が其レニモ拘ラズ日本
が戦事ヲ開始スルトセバ、日本ハ自己ニ有利ナ解決ヲ他ニ強
要^直得ル迄ニ、既ニソノ豫備資材、特ニ油鋼鉄ノ豫備^直ヲ委ク
使ヒ果スコトニナル可能性ガアル。斯クテ、日本ノ首脳部ノ決
心ヲ鈍ラセテキルノモ主トシテ日本ノコノ経済事情ニ依ルノ
テアル。コノ問題ハ此所數ヶ月間内ニ日本ガ解決セネバ
ナラヌ問題デアリ。

眞珠湾攻撃 第十四卷 千三百七十三、千三百
八十一、千三百八十二頁)